

納涼祭

五月の連休明けから始まった「よさこい踊り」の練習は、七月には鳴子を持っていいよ本格的になってきました。私には初めての体験ですが、新しい事にチャレンジする機会を頂き、いつもワクワクして練習に参加させて頂いています。

ところで今年初めての試みとして、利用者様も観るだけでなく一緒に踊って頂けるように、「体験型講座『正調よさこい鳴子踊り』に挑戦」のコーナーが予定されています。

そこで、六月から土曜日の音楽療法の際、三ヶ月で全六回「よさこい講座」を行っています。四国三大祭りや観光地のスライドショーを見て頂き、よさこいクイズをしたり、「正調よさこい鳴子踊り」を歌ったりして、馴染んで頂ける機会を提供しています。

スタッフ総踊りの練習は昼休みに全員で行っています。振り付けを覚え、動きを揃え、観て下さる方々に、「元気ハワー」を発信出来ますよう、皆真剣に取り組んでいます。今年も国立あおやぎ苑に集まって下さる方々全員が一緒にあって、夏の風情を満喫できるといいですね!!

音楽療法士
妹尾福子



特集 『作業療法』「活動の効果と目的」第2回

「今度、どんな作品作る?」「この色はどうかしら?」「ちょっと難しいかなあ…」「私もあなたと同じの作りたいわ」等々、活発な意見交換を楽しむ利用者様方。実は、会話のきっかけを創り出しているのが前回のお話した「作業」の持つ効果なのです。同じ活動の場で話をすることで、想像力が膨らみ、考えがまとまったり、作品が完成すると達成感や自信に繋がりがやすく、続ける意欲や褒められる喜びが感じられます。いろいろな活動のなかで、今回は、革細工と陶芸を取り上げて考えてみましょう。

革細工

簡単なコースターやキーホルダーから財布や眼鏡ケース、鞆、インテリア用品などの凝った作品まで、技術の習熟度や好みに合わせて、性別、年齢に関係なく誰にでもいろいろな作品が作れます。革は、丈夫で耐久性があり、表面が美しく磨くと光り、染めつきが良いので、実用的で見栄えの良い作品が出来上がります。

道具を持って使うため、一定の姿勢を保てること、腕、指の筋力、握力、指先の感覚、



目と手の協調性が必要ですが、手が弱い場合は、小槌の柄や刻印にスポンジを巻きつけ、持ちやすくします。模様がちれたり、かすれず彫れるように注意・

集中力・持続力も必要ですが、繰り返しにより技能の向上が期待できます。

当苑では、道具に限りがあるので、譲り合って使うことでお互いの進み具合にも興味が湧き、物作りを共有する連帯感も生まれます。

陶芸 (オープン陶芸)

粘土は吸水性があり、やわらかく、どんな形でも作れ、気に入らなければ何度でも修正できるので失敗を恐れず取り組みます。焼いた器やお皿に絵の具で好きな色を塗ったり、絵を描き、世界で一つだけの個性ある作品を作ることができます。また、置物として飾ったり、実際に食卓で使う楽しみもあります。



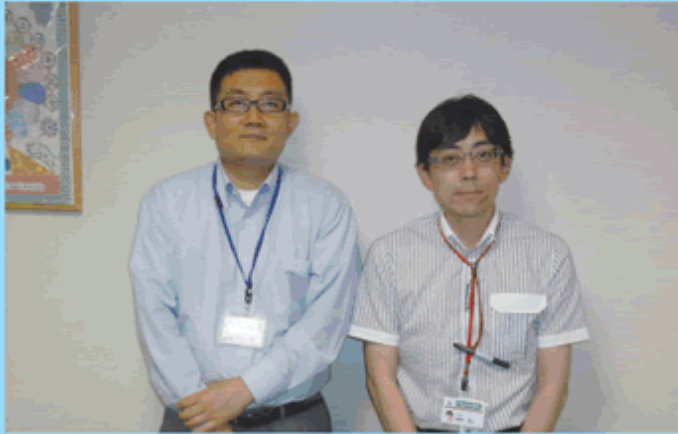
成形の方法は、作業療法では、手で型作る「手びねり」が主です。つかむ、ちぎる、丸める、つぶす、伸ばす、こするなど掌や手指の動きと感覚(触覚や厚みを感じる圧覚、手を動かす運動感覚)、筋力の調整が必要です。

陶芸に興味のある人や手指の機能訓練として、粘土のべたべたする感じが気にならない人であれば誰でも行えます。

文責 作業療法士 佐々木えりな

参考文献: 作業——その治療的応用 改訂第2版
社団法人日本作業療法士協会編集 協同医書出版社

医事課



医事課 北湯口・網野 (左より)

こんにちは医事課です。医事課は平成25年4月に開設した新しい部署です。現在、北湯口(きたゆぐち)と網野(あみの)の二名が在籍しております。

「国立あおやぎ会」をご利用いただいているお客様に毎月発行しております「利用料請求書」の作成および、介護保険の保険者(市区町村)への「介護報酬請求データ」の作成および伝送業務を主に行っております。「利用料請求書」に誤りがないように正確さを期しておりますが、ご意見・ご質問等がございましたら何なりと医事課までご連絡下さい。

仕事の性質上、皆様と直接お目にかかる機会は少ないと思いますが、今後も努力、精進して参りますので何卒宜しくお願い致します。

まだまだ暑い日が続きますが、体調の管理には十分に留意され、お身体ご自愛くださいませ。

医事課 北湯口・網野

展示会

6月28日～30日の3日間、展示会が開かれました。

通所・入所の各フロアの利用者様が作成された作品を展示しましたが、どれも力作ばかりで素晴らしかったです。

出展して下さった皆様ありがとうございました。



園芸



今年も様々な野菜が収穫されました。



リハビリテーション課からのお知らせ

最近、リハビリ室をご利用になられる方が増えています。

リハビリ室が大変混雑している際には、誠に申し訳ございませんがプログラムによっては順番が前後することもございます。

また、リハビリ室の椅子が足りなくなる場合がございますので、リハビリ時間になりましたら、担当職員がお伺いします。

ご協力の程、宜しくお願い致します。

リハビリテーション課 職員一同

私のふるさと自慢

こんにちは、リハビリスタッフの大瀧です。暑い日が続きますが、皆さんは体調を崩したりしてないですか？今回は私の生まれた街の紹介をします。

私が生まれたのは港区の白金です。幼稚園に通うまでを白金の祖母の家で過ごしました。

白金というと超高級住宅街でセレブな人たちの住んでいる街というイメージがあると思います。確かに、すぐ近くの広尾や白金台にはかつてアメリカ軍の保養施設やフランス大使館があり、高級住宅街がありました。当時としてはかなり珍しかったカウンタックやボルシェなどのスーパーカーが駐車していたり、外国の商品が買えるスーパーなどがありました。

住所でいう白金は、先に述べた高級住宅街の広尾や白金台に挟まれた工場の多くある地域です。

すぐ近くには首都高速が走り、魚屋さんや駄菓子屋さん、タバコ屋さんなどがあり、夕方になるとラッパを持ったおじさんがリヤカーで豆腐を売りに来たり、移動販売車が来たりと下町のような情緒がありました。

祖母の家の前は椅子の革を張る工場、その隣は車のブレーキパーツを作る工場でした。僕にとっての白金は高級住宅街というより、下町や工場地帯のイメージがあります。

白金生まれと言うと、セレブで接しにくいというイメージがありますが、決してそんなことはないので気軽に声を掛けて下さいね！

作業療法士 大瀧賢亮

